

『アイの絵本』そだててあそぼう18
くさかべのぶゆき へん・にしなさちこ え
農文協(1999年4月)



西緑地の一画に、ヒョウタンやアイが育っているのを、ご存知ですか？樹の会のメンバーが、植えたものです。ヒョウタンは、大きく育ったら楽器にしたり、お酒を入れてとっくり代わりにもできるでしょうか。アイでは糸や布を染めて、いろいろなものを作りたいと楽しみにしています。江戸時代から明治にかけて、日本人は「藍色」が大好きだったと、『アイの絵本』に紹介されています。藍色が庶民の色になったのは、実は木綿の着物が作られるようになったことと関係しています。それ以前の麻やカラムシ(イラクサ科の植物で、繊維がとても強く、織物に利用されました。西緑地にも生えています)などの繊維は色を染めるのが難しかったのですが、木綿はそれらに比べて肌触りも良く、藍で染めやすかったのです。藍は江戸時代の庶民の色になりました。私も藍の色が好き。アイを使って、いっぱい楽しみましょう。本を参考にして、「たたき染め」、「生葉染め」など、簡単にでき

ます。どちらも最初は青い色ではありません。でも、布を空気にさらしたとたん、あーら不思議、色が青く変わるのです！美しい空の色です。ゆかたやなどでおなじみのもっと濃い青を出すには、「すくも」を使います。「すくも」はアイの葉を発酵させて作るので手間がかかるのですが、本書では乾燥葉を使って、簡単に本格的な色を出す方法を紹介してくれています。

染め方によって、いろいろな色が出るのですね。染めた糸を使って、縞模様や紺模様に布を織ることもできます。

アイという植物の不思議さと素晴らしさ、そしてそれを利用してきた先人の知恵。藍を育てたり、染めたりながら昔の人の生きかたを感じてみませんか。ヤママユ連・手作りカフェーでは、この夏、藍染めにチャレンジする予定です。体験したいかたはぜひご参加ください。

本書の紹介は、科学読物紹介サイト「本となかよし」

(<http://kagakuyomimono.cool.ne.jp/hon/6shokubutsu/ai/ai.html>)にも載っています。